

Friedman DS40 (Dirty Shirley) プラグイン

David Friedman によって設計された 60, 70 年代のロックギターアンプの強力なエミュレーション

オーナーズ・マニュアル



Friedman Amplification と Brainworx が共同で開発し、Universal Audio によってディストリビューションされます。

brainworx
music & media gmbh

FRIEDMAN

UNIVERSAL AUDIO

Friedman BE100 amp プラグインは、他の UAD2 プラグインと同様にインストール、動作させることができます。
システム要件など一般的な情報については www.uaudio.com を参照してください。

Friedman DS40 (Dirty Shirley) プラグイン

ギター・アンプ、スピーカー・シミュレーションと FX ラックの厳格なモデリング



Dirty Shirley DS40

Friedman DS40 は、David Friedman による設計の象徴的なサウンドのビンテージ・スタックアンプをモデリングしています。60 年代、70 年代のロック・ギターサウンドを追求し、どんなレコーディング・セッションでも簡単に素晴らしいサウンドを提供します。

Dirty Shirley は、Jim Marshall による初のギターアンプ、Marshall JTM-45 をモディファイしたアンプにインスパイアを受けています。初期の Led Zeppelin のレコードで聴ける Jimmy Page の象徴的なサウンドをエミュレートしています。

Friedman は、ビンテージのフィーリングを損なうことなく、ギタリストの要求を実現する Dirty Shirley は、Jimmy Page の有名なモディファイした Marshall サウンドをキャプチャーするよう設計されています。Dirty Shirley は、多くの伝統的プリティッシュ・アンプと同様に 1 チャンネルです。クランチとクリーン・サウンドのより良いコントロールを行なうためにゲインとマスターボリュームを独立して搭載しています。

Dirty Shirley プラグインの能力は、正確にプレーヤーの技術とギターのボリュームの設定に対応し、エレキギターをレコーディングする UAD オーナーにとって必須となるアンプシミュレーターと言えます。

このプラグインの主な用途について

1. プロフェッショナルなサウドルームや高価なギター用マイクを必要とせずにお好みのボリュームでギターをトラッキング
2. DI から接続したギターをレコーディングし、内部のアンプ・シミュレーション、レコーディング・チェーン、FX ラックを使用し、DAW で編集、加工を行う
3. 他のアンプ・シミュレーターでレコーディングした完璧なギタートラックをリアンプ
4. 偉大なロックギタリストによる有名なギターサウンドを忠実にエミュレート。
5. 大きなボリュームを必要とせずに強烈なディストーションを得ることができます。
6. Apollo の Console を使用してスタジオのスピーカー、ホームステレオ・システム、ヘッドフォンや本物のギター・アンプやキャビネットに接続して最小のレイテンシーで自宅練習が可能

ベーシック

本物の Dirty Shirley を操作しているかのようにアンプ・セクションを使用することができます。まず、必要な量の歪みの設定に応じてインプットを選択してください。“L”インプットを選択すると、クリーントーンが得られ、“H”インプット激しいクランチサウンドが得られます。プレゼンスは“5”に設定してスタートし、ベース、ミドル、トレブルのトーン設定をお好みで行ってください。

Dirty Shirley プラグインは、Apollo シリーズのインターフェイスで使用することを念頭に置いて開発されました。もちろん、BE100 プラグインを他の UAD-2 デバイスでも使用することが可能ですが、若干のレイテンシーが発生するので、リアルタイムでプレーしたい場合には、Apollo インターフェイスでの使用をお勧めします。

DI 経由のドライなギター信号をもっとも低いレイテンシーと可能な限りハイクオリティでプレー、レコーディングするには、Apollo インターフェイスの Hi-Z インプットに入力するか、良い DI ボックスとマイクプリアンプに接続した後に Apollo シリーズ・インターフェイスの ライン入力に接続してください。

Console ソフトウェアのインサート・エフェクトスイッチを切り替える

可能な限り低いレイテンシーでプラグインを使用するために、DS40 プラグインを Console ソフトウェアに立ち上げると、(インサート・エフェクトを、Console で[REC]に切り替えることで)プロセッシングしたギター・アンプ・サウンドをレコーディングするかどうか切り替えることができます。トラッキング中はアンプサウンドでモニターしながらドライの DI ギター・サウンドをレコーディングしたい場合には、Apollo の Console ソフトウェア上で[MON]に切替えます。

プロセッシングされた音をモニタリングだけに使用することの利点は、後にミックスダウンを行うときにアンプやエフェクトの設定を自由に変更できることが挙げられます。出来上がった曲に合わせてゲインやディレイを増やしたり、減らしたりした方が良いと思った場合、即座に対応することができます。

プロセッシングされる前のギタートラックをレコーディングする利点は、ギタートラックをミックスするときに多くのプラグインを必要としない点です。通常のギター・アンプによるレコーディングの場合と同じように EQ やコンプレッションなどすべてセッティングした状態で、レコーディングを行います。これは、“欲しいサウンド”が決まっていて、何をすればよいか分かっており、後に微調整を必要としない場合、プラグインの消費率とエディットの時間を節約することができます。これはプロデューサーやバンド仲間も理解しているでしょう。



Dirty Shirley フロントパネルのコントロール

POWER ON/OFF

Dirty Shirley アンプ・プラグインは、このスイッチを使用して、バイパスすることができます。プロセッシングされた音と原音を比較する場合などにこのスイッチを使用して下さい。

GAIN (Distortion):

Dirty Shirley のゲイン・ノブは、12AX7 プリアンプ・セクションをドライブさせて起こすディストーションの量をコントロールします。

MASTER:

アンプのボリュームを調整します。より大きく設定するとより大きな音量になります。

TONECONTROL (Bass, Middle, Treble and Presence):

ベース、ミドル、トレブル・コントロールは、それぞれの周波数帯のブースト/カットを行います。中心位置の“5”はトレブル、ベースのどちらのコントロールも効いていません。ミッドは、7~8 が無効な点となり、中域をスクープするにはいくつかのコントロールを必要とし、ブーストし、ミックス内での存在感を増すだけの十分なヘッドルームを有しています。

プレゼンスは、中域から高域にかけてのブライトさを加えたり、取り除きます。ベースとミドルの“5”は何も影響を起こしません。このコントロールは、すべてのチャンネルに影響を与えます。

INPUT selector (High & Low)

Dirty Shirley の 2 系統のインプットは、アンプがクリーン、ディストーションのどちらのサウンドを提供するかを決定します。

インプット“L”は、クリーントーンを提供する低い感度のインプットです。

インプット“H”は、より高いディストーション量を提供する高感度インプットです。



Dirty Shirley バックパネルのコントロール

1. NOISE GATE

‘CLOSED’ LED

この LED が点灯しているときは、ノイズゲートが閉じていることを示します。これは、THRESHOLD 値よりもギターのシグナルが低くなり、ノイズゲートが、RANGE コントロールで調節した値の分、アンプのアウトプット・シグナルを減衰させます。(上図では 15dB)

NOISE GATE ON / OFF:

ノイズゲートのオン/オフを切替えます。スイッチが上向き(“ON”)でノイズゲートが有効になります。

THRESHOLD:

ノイズゲートは、ギターからのシグナルが一定のレベルを下回るとアンプのアウトプット・シグナルを減衰させます。このレベルのことを“スレッシュホールド”と言います。オーバードライブしたアンプのノイズが削減される用にスレッシュホールドを調整しますが、ギターそのもののサウンドに影響が内容に調整してください。

RANGE:

インプット・シグナルがスレッシュホールドを下回った場合、アンプのアウトプット・レベルを減衰、またはミュートします。その減衰値をコントロールします。最大値ではアウトプットをミュートすることができます。

2. AMP のフィルター (プリ/ポスト 切替)

TIGHT フィルター

TIGHT フィルターを使用すると、DI ギター・シグナル(PRE)、またはプロセッシングしたアンプのサウンド(POST)、いずれかの低域をカットすることができます。

PRE: ギターのピックアップからのサウンドで低域がもたつく場合、アンプに入力する前にローエンドをフィルタリングすることができます。

POST: アンプ・セッティングで発生したローエンドをカットしたい場合、このスタジオ・クオリティのハイパス・フィルターを使用することができます。

OFF: TIGHT フィルターをバイパスします。

SMOOTH フィルター

SMOOTH フィルターを使用すると、DI ギター・シグナル(PRE)、またはプロセッシングしたアンプのサウンド(POST)、いずれかの高域をカットすることができます。

PRE: ギターのピックアップからのヒスやノイズが多く感じる場合、アンプに入力する前にハイエンドをフィルタリングすることができます。

POST: アンプ・セッティングで発生したハイエンドの一部をカットしたい場合、このスタジオ・クオリティのローパス・フィルターを使用することができます。

OFF: SMOOTH フィルターをバイパスします。



Dirty Shirley バックパネルのコントロール

3. レコーディング・チェーン(スピーカー・セレクション)

REC CHAINS:

シンプルに“REC CHAIN”プルダウンメニューをブラウジングしてスピーカーと完璧なスタジオをセットアップを選択してください！

Brainworx のオーナーDirk Ulrich は、過去 20 年の間に DREAM THEATER, TOTO, MICHAEL JACKSON 等をはじめとする多くのアーティストとプロデュースやレコーディングを行ってきました。ドイツの Brainworx Studio (www.brainworx-studio.de) では、これまでに 9 台しか製作されなかった NEVE VXS 72 コンソールの 1 台と最高級のアウトボード EQ やマイクプリアンプを所有しています。

この素晴らしいセットアップを使用して、Friedman アンプに使用するためにカスタマイズした膨大な“レコーディング・チェーン”を作成し、それをプラグイン・アンプの設定に使用することができます。66 種類もの完璧なマイキングや EQ されたギター・キャビネット等を 1 回のマウスクリックで簡単に使用することができます。

多くのアンプ・シミュレーターは、キャビネットとマイクの選択に違和感を与える場合があります。そしてこれらの不完全な設定は EQ や、プロセッシングによってユーザーが補完します。異なるマイク・セットアップのミックス、フェイズの調整、や EQ など…しかし、これらは簡単な調整ではありません。これらを正しく設定するには長年の経験が必要となります。

調整する必要があるのは、トーンやゲインで、アンプのチャンネルとセッティングに最高のサウンドを得られる REC CHAIN を選択しプレーするだけです。それはリコールでき、信頼があり、フレキシブルかつ即座に対応。

レコーディング・チェーンにお気に入りが見つけれなかった場合、最後のセッティングとして独自のマイキングをしたキャビネットを使用することができます。(EMPTY PLAY VIA REAL CAB とラベリングされている)このセッティングは、Console に 1 台のチューブ・アンプのみの音を接続します。このサウンドがより良い効果を得る場合もあります。

+/- スイッチ (プラスマイナス)

REC CHAINS テキストボックスのプルダウンメニューを使用するか、“+/-”記号をクリックして REC CHAIN をブラウジングすることができます。

AUTO & BAR セレクション

使用する曲に最高にマッチする REC CHAIN を探す場合、マウスで REC CHAIN を選び、2,3 フレーズ弾いた後にまた次の REC CHAIN を探すためにマウスを使うという煩わしい操作をしなければなりません。

DS40 にはオート・モードが用意されています。

パターン(1, 2 または 4 小節)を選択するとプラグインは DAW のテンポにシンクし、REC CHAIN のオートメーションを使用できるようになります。このようにして演奏を中断することなく、いくつかの REC CHAIN の音を 1, 2, 4 小節ごとに自動的に切替え、試すことができます。

スピーカーセットアップで聴きながらちょうど良い REC CHAIN が見つかったら、もう一度 AUTO ボタンを押し、オート・モードを停止し、必要な REC CHAIN を選択してトーンやゲインを調整して音作りを進めてください。



Dirty Shirley / バックパネルのコントロール

4. LO-FI DELAY

ビンテージのストンプボックス・ディレイをモデリングし、限られた周波数帯域、リピートの高域減衰等、その代表的なサウンドを再現しました。その後、ミックスコントロールや DAW コントロールの BPM ベースのテンポシンク等の現代的な機能も追加しました。

もちろん、自分のギター・サウンドを出すためにコーラス、フランジャー、リバーブや、他のディレイのような外部のエフェクトも使うことができますが、我々のディレイによって素晴らしいサウンドが得られるプリセットがあることを試して頂きたいと願っています。

ディレイのタッチを聞かずにリード/ソロのサウンドをテストすることは多くのプレーヤーにとって現実的ではないと考え、このエフェクトを加えました。我々は、このビンテージ・ディレイのサウンドが本当に気に入っています。

DELAY on/off:

ディレイのオン/オフを切替えます。スイッチが上向き(“ON”)でディレイがオンになり、下向きでオフになります。

TAP:

マウスで TAP ボタンをリズムカルにクリックすることで、ディレイタイムを調整することができます。DAW や BPM ベースのテンポに合わせてプレーしなくても、ディレイのテンポをギターのリフに合わせることができます。

TIME:

別の方法として TIME ノブを使用してミリ秒単位でディレイタイムを調整することができます。最大ディレイタイム: 400ms。

X2 & /2 (adjusting the delay time):

/2 ボタン: ディレイタイムを半分にします。

x2 ボタン: ディレイタイムを倍にします。

最大 400 ms を越えない限り、両方のボタンを繰り返し使用することができます。

HOST BPM:

この LED パネルは、DAW から受信する実際のテンポを表示します。
(4/4 表示をベースに BPM 表示)

MIX:

必要に応じて、ドライのアンプサウンドとディレイタイムを調整する MIX コントロールを使用してください。控え目なディレイの場合、約 10% 程度、濃いディレイを必要とする場合は、50% 以上の設定が必要な場合があります。

FEEDBACK:

FEEDBACK は、繰り返しの数をコントロールします。99% の設定は、ほぼ無限のディレイ・ループとなります。ロックのリードサウンドでの一般的な設定では 25% 前後であると言えます。

LO-FI:

LO-FI ノブを右に回すとディレイのフィードバック・シグナルの音質を下げる効果をもたらします。これはフィードバック・シグナルをローパス・フィルタリングと、歪みを与えます。しかし、多くの場合、ギター的なサウンドやスタイルと与えることができます。。



Dirty Shirley バックパネルのコントロール

5. INPUT GAIN:

Friedman プリアンプを強くドライブさせたい場合に、お好みに合わせてインプット・ゲインを調整することができます。ビンテージ・ギターのシングルコイル・ピックアップの中には、インプット・ゲインの補正が必要な低レベルのアウトプットの物があります。

ヘビーメタル・スタイルのハムバッカーの場合は反対です。DI シグナルがホットな場合や、DS40 プラグインにインプットする前に他のプラグインを使用している場合は、インプット・シグナルを下げたくなるかもしれません。

標準的なギターを使用する場合、インプット・ゲインを“0”から始めることを推奨します。

6. Internal POWER SOAK:

本物のパワーソークは、ギター・パワーアンプのボリュームを減らすために使用します。耳を保護し、近隣に迷惑をかけない音量で、アンプがクリッピングを始めるまでチューブ・アンプをドライブさせて、レコーディングを行うことができます。

クリッピングしたチューブ・パワーアンプは、ギター・アンプのシグナルに歪みや倍音を加え、ほとんどのギタリストが好むサウンドを出力します。パワーソークによってボリュームを抑えられたサウンドは、マスター・ボリュームで同じ音量に調整した場合と、サウンドが異なります。

我々は、DS40 のチューブ・パワーアンプの動作をモデリングしたので、アンプとパワーソークのマスター・ボリュームのセッティングを数通り試すことができます。最初に -10 dB の設定で試されることをお勧めします。

7. PRE-AMP と POWER-AMP のオン/オフ

BYPASS PRE:

他の(チューブ、またはソリッドステートの)ハードウェア・プリアンプを使用してレコーディングを行う場合、BYPASS PRE スイッチを使用して BE-100 のプリアンプを完全にオフにすることができます。

このケースでも内部のパワーアンプとスピーカー / REC CHAIN シミュレーションを使用でき、外部のパワーアンプやスピーカーを使わずにギターをレコーディングすることが可能です。

スイッチが上向き: プリアンプはバイパス(オフ)

スイッチが下向き: プリアンプはオン

BYPASS POWER AMP:

Friedman プリアンプの歪みのみを使用する場合には、パワーアンプをオフにすることができます。ギターではないシグナルを歪ませる時には、この方法が良いこともあります。現実的なギターのレコーディングを行いたい場合にはパワーアンプを使用したレコーディングを推奨します。(パワーアンプは、ギター・サウンドとして不可欠な要素を持ちます)



Dirty Shirley バックパネルのコントロール

8. SETTINGS / トップ・ツールバー

UNDO / REDO:

DS40 が変更したコントロールを、最大 32 ステップでいつでもアンドゥ/リドゥすることができます。セッティングを元に戻したくなった場合はいつでもアンドゥを使用することが可能です。

SETTINGS (A/B/C/D):

DS40 は、すべてのプリセットに保存することができる 4 個の内部セッティング (A/B/C/D) があります。1 プリセットにつき、最高で 4 個のアンプとエフェクト・セッティングのバリエーションを保存することができます。

同じアンプ・セッティングで、ディレイの濃さ、異なるディレイタイムの設定をしたり、プリセット内でリード/クランチ/クリーンを切替えたりすることができます。

これらの設定は、ほとんどすべての DAW でオートメーション化することができます。この方法によって、ドライナリズムサウンドからディレイがかかったリードサウンドに瞬時に切り替えることができます。

COPY / PASTE:

同じサウンドのバリエーションを作る場合、何度も一から音作りをする必要はありません。セッティング A のバリエーションをディレイ無しにして B に作ると仮定します。

- セッティング A を選択し、“COPY”をクリックします。
- “SETTING”セクションで B に切替えます、
- “PASTE”をクリックすると A のセッティングを再現します。
- ディレイをバイパスして終了です。

たったこれだけの操作で A と B はディレイの有無以外はまったく同じサウンドになります。

FX Rack:

スタンダードとズーム・ビューを切替えます

ファクトリー・プリセット

DS40 で多くのストラトやテレキャスター、レスポールのようなギターで完璧なサウンドが得られるようなプリセットをたくさん用意しました。ファクトリー・プリセットのすべてに A/B/C/D のバリエーションを用意しているのでぜひお試しください。

これは事実上ファクトリー・サウンドを 4 倍にし、多くの同じようなアンプ・セッティングでのフィルターやディレイのセッティング・バリエーションを楽しめるようになっています。

また、これらのプリセットは DS40 プラグインを使用してオリジナル・サウンドを作成するためのスタート・ポイントとして使用することも意図しています

オリジナルのサウンド & プリセットの作成

オリジナル・サウンドを作り始める時に調整するもっとも重要なパラメーターは DRIVE、TONE STACK と REC CHAINS です。

- TONE STACK (Bass、Treble) のコントロールを中心位置 (12 時) に設定してください。
- TONE セッティングを調整し、HIGH、NORMAL インプットのどちらかを選択してください。
- GAIN や DRIVE をお好みの位置に調整してください。
- REC CHAINS を使用してプレーし、TONE STACK を変更することなくイメージの近いサウンドを選択してください。
- アンプの TONE STACK や DRIVE の調整を行ってください。

・お好みに合わせてディレイやフィルター、ノイズゲートを加えて完了です。

アンプのセッティングや REC CHAIN によって異なるトーンを提供する膨大な選択肢は、様々な音楽ジャンルにとって素晴らしいサウンドを提供する組み合わせを提供できると確信しています。

DS40 アンプと他の UAD-2 プラグイン (ダイナミクス、エフェクト、ルームシミュレーションなど) と組み合わせで数えきれないほどのワールドクラスのプロダクションに対応するギター・サウンドを作成できます。ぜひお楽しみください。